

2. 人材育成計画(リラクゼーションサービス)

職種	このレベルへの参入パターン		このレベルでのキャリアアップ		人材要件			
	入職ルート	このレベルに至るまでの必要な経験年数	人材育成方法	次のレベルへのステップアップ	必要となる基本的な資質・能力等	関連資格	経験が活かせる業職種	
セラピスト	初級 (上司のサポートつきで、仕事ができる。初心者)	・新卒採用を行う企業は少なく、中途採用が大半を占めている	初級←入職 ～1年程度	・原則としてOJTにより、トリートメント技術や接客能力の向上を図る ・1～6ヶ月程度の社内外研修、資格取得講座に参加するなどにより、人材育成が行われる	・1年程度は、上司がサポートを行うが、それ以降は、自分で経験を積むこととなる ・既に養成学校などで実技を経験していれば、中級へのステップアップは比較的早い	・精神力 ・体力 ・コミュニケーション能力 ・思いやり、優しさ、きめ細かな配慮 ・他人の身体に触れることが好きであること	【資格名】 セラピスト資格 【必要レベル】 取得していると就職に有利 【取得方法】 専門学校等に通って取得する(業界団体や養成学校が個別に認定)	・一般企業の勤務経験(ストレスを感じた経験)
	中級 (一通りの仕事、自分の判断ができる)	・契約社員、パート職としての雇用も多い ・前職は、一般企業の事務職員、営業職員など様々で、特に限定されない ・養成学校卒業後、すぐに独立し、サロン経営するケースも多い	中級←初級 主に1年程度	・サロンのマネージャーや先輩によるOJTにより、施術・カウンセリング能力を身に付ける ・1～6ヶ月程度の社外研修により、知識や技術を習得。自社の研修講座と、業界団体が認定する学校などでの社外研修の2種類がある。認定校での研修の目的は資格取得が多い	・リピーターがつくようになれば一人前と認められる ・中枢スタッフの感覚的評価により処遇が決定するケースが多い ・契約社員から社員への道も設けられている ・企業勤務の経験後、独立し、サロン経営するケースも多い	・精神力 ・体力 ・コミュニケーション能力 ・思いやり、優しさ、きめ細かな配慮 ・他人の身体に触れることが好きであること ・人が好きであること ・自己コントロール力 ・観察・洞察 ・専門的知識・技術・技能 ・関係構築 ・予測・対応	【資格名】 セラピスト資格 【必要レベル】 取得していると就職に有利 【取得方法】 専門学校等に通って取得する(業界団体や養成学校が個別に認定)	・一般企業の勤務経験(ストレスを感じた経験) ・リラクゼーション業界でのトリートメントの勤務経験(逆に他社の癖がついていると好まれない場合もある)
	上級 (職務を企画・立案し、部下に指示を出すことができる(職務全体をマネジメントできる))	・新卒採用を行う企業は少なく、中途採用が大半を占めている ・契約社員、パートとしての雇用も多い ・即戦力として、民間認定資格を有する人材のみを採用する企業も増加している。特にリフレクソロジーでこの傾向が強い ・質のよい人材を確保するため、信頼できる業界団体のHP等で人材募集を実施するケースが多い	上級←中級 1年以上 (ただし、業務を長年積み重ねれば必ず上級に行けるというものではなく、個人の感性に左右されるところが大きい)		・自分で経験を積む ・顧客からの指名、高いリピーター率の確保により、上級職として認められる ・企業勤務の経験後、独立し、サロン経営するケースも多い ・セラピスト養成学校の実技講師になる(あるいは兼任する)場合もある	・深い人間性 ・優れた技術・技能・専門的知識 ・観察・洞察 ・自己コントロール力 ・精神力 ・体力 ・コミュニケーション能力 ・思いやり、優しさ、きめ細かな配慮 ・他人の身体に触れることが好きであること ・人が好きであること ・関係構築 ・予測・対応	【資格名】 セラピスト資格 【必要レベル】 取得していると就職に有利 【取得方法】 専門学校等に通って取得する(業界団体や養成学校が個別に認定)	・豊富な施術経験

アロマセラピー：精油を利用したリラクゼーションを提供するもの。大きく分けて、①美容を目的とした「エステティック・アロマセラピー」、②アロマセラピーの持つ抗不安効果、鎮静効果などを利用してリラクゼーションを得ることを目的とする「サイコ・アロマセラピー」、病気や症状の緩和を目的とする「メディカル・アロマセラピー」の3つがある(京都府立大今西氏の定義による)

リフレクソロジー：reflex(反射)とlogy(学問)を合わせた造語。足など反射区の刺激によりリラックスを得るものである。その業態は英国式、ドイツ式、タイ式、台湾式など、多様化している。